

令和7年度 障害児の相談支援部会
報告書

※令和7年度第1回
堺市障害者自立支
援協議会資料7

部会名	障害児の相談支援部会 (事務局：障害施策推進課企画相談係、障害支援課障害児・発達障害支援係)																								
部会の目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度共通テーマ「複合的な課題を抱える家族への支援 ～その中にいる児童にも焦点を当てて～」に対する各区協議会での議論を受け、専門的議論を深めるため令和4・5年度に設置したワーキングチーム、障害児の相談に特化した議論を進めるため令和6年度に設置した準備会を経て、令和7年度から部会化 ○ 障害のある子どもや発達に不安のある子ども（以下「障害児」）の地域社会への参加・包容（インクルージョン）に向け、ライフステージを通じたとぎれのない支援、個人を尊重した横断的な支援などによって、障害児とその家族等が、必要な情報を獲得し支援を受け、地域で安心した生活を送ることを目的とする 																								
部会の構成員	(敬称略、順不同) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">委員名</th> <th style="width: 50%;">所属等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>増田 基嘉</td> <td>生活リハビリテーションセンター</td> </tr> <tr> <td>山本 寿美</td> <td>特定非営利活動法人 ピーす</td> </tr> <tr> <td>高田 美奈子</td> <td>地域生活支援センターフィットウェル</td> </tr> <tr> <td>高田 綾</td> <td>相談支援室つぼみ/みのりの会 (※)</td> </tr> <tr> <td>小野寺 美雪</td> <td>VIVO SUPPORT ロペ/みのりの会 (※)</td> </tr> <tr> <td>音揃 和美</td> <td>堺市手をつなぐ育成会</td> </tr> <tr> <td>里村 麻由子</td> <td>児童発達支援センターつぼみ園</td> </tr> <tr> <td>永吉 真由</td> <td>総合相談情報センター</td> </tr> <tr> <td>佐々木 直子</td> <td>中区障害者基幹相談支援センター</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">オブザーバー</td> </tr> <tr> <td>鷹野 雪保</td> <td>障害福祉部</td> </tr> </tbody> </table> ※障害児相談支援事業所交流会の通称	委員名	所属等	増田 基嘉	生活リハビリテーションセンター	山本 寿美	特定非営利活動法人 ピーす	高田 美奈子	地域生活支援センターフィットウェル	高田 綾	相談支援室つぼみ/みのりの会 (※)	小野寺 美雪	VIVO SUPPORT ロペ/みのりの会 (※)	音揃 和美	堺市手をつなぐ育成会	里村 麻由子	児童発達支援センターつぼみ園	永吉 真由	総合相談情報センター	佐々木 直子	中区障害者基幹相談支援センター	オブザーバー		鷹野 雪保	障害福祉部
委員名	所属等																								
増田 基嘉	生活リハビリテーションセンター																								
山本 寿美	特定非営利活動法人 ピーす																								
高田 美奈子	地域生活支援センターフィットウェル																								
高田 綾	相談支援室つぼみ/みのりの会 (※)																								
小野寺 美雪	VIVO SUPPORT ロペ/みのりの会 (※)																								
音揃 和美	堺市手をつなぐ育成会																								
里村 麻由子	児童発達支援センターつぼみ園																								
永吉 真由	総合相談情報センター																								
佐々木 直子	中区障害者基幹相談支援センター																								
オブザーバー																									
鷹野 雪保	障害福祉部																								
開催日時及び議事概要	【第1回】令和7年7月18日(金) (案件) <ul style="list-style-type: none"> 1 委員紹介 2 障害児の相談支援部会の設置について <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児相談支援の状況 ・ 障害児の相談支援部会設置までの経過 ・ これまでの議論の振り返り 3 障害児の相談支援部会の議論の方向性について <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児の相談支援部会の方向性とスケジュール ・ 令和7年度障害児の相談支援部会の協議内容 4 意見交換 ○委員ご意見(要旨) <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童発達支援センターと障害者基幹相談支援センターの現状について報告 																								

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害受容のタイミングは個人差がある。障害理解が追いつかないまま、制度選択を迫られることもある。また、支援者からの伝え方も難しい ・ 今後、障害児相談支援の計画策定率が大きく減少する懸念。1人指定障害児相談支援事業所では判断が難しいケースなど限界がある。相談員が共有や相談できる場所が必要 ・ 専門的な助言がもらえる機関とつながりたい。伴走型の支援が望ましい ・ こどもの見立ても背景のアセスメントも重要であり、うまく重なる支援が望ましい ・ 医療的ケアでは病院側も地域とのつながり方を模索している ・ 親の会では情報更新や保護者同士のつながりができる ・ 支援学級は人数増でコミュニティがなくなり、保護者に情報や理解が届いていない ・ 保護者も相談員も等しく今の情報を得られる仕組みがほしい ・ 発信だけではなく、保護者側の受信について検討が必要 ・ 保護者側が受け入れるタイミングで情報を届けないと届かない難しさがある ・ 既存の仕組みに再度手を入れる時期にきている ・ つなぐだけではなく、最初の段階でもっと丁寧に関わる必要がある ・ 支援機関が増えたことによりつなぎ先の最適な判断が難しくなった。おおまかでも道筋の整理が望まれる ・ 通所が困難な家庭への支援、マンパワーが厳しい部分を埋める手立てが必要 ・ 各機関が発見の目は持てるようになってきたので、先の力を育てることが求められる ・ 保育所等訪問支援の事業所が増加し、ばらつきの整理が必要と思われる
<p>今後の 方向性 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害児の相談支援に関する様々な課題を整理し、「仕組み」「ネットワーク」の構築に向け、障害児の相談支援体制を検討する ● 部会では障害児を「障害のあるこどもや発達に不安のあるこども」と定義 ● 障害児の相談支援に関して、既存の社会資源を活用した体制整備等について、令和7年度は年3回程度協議を予定